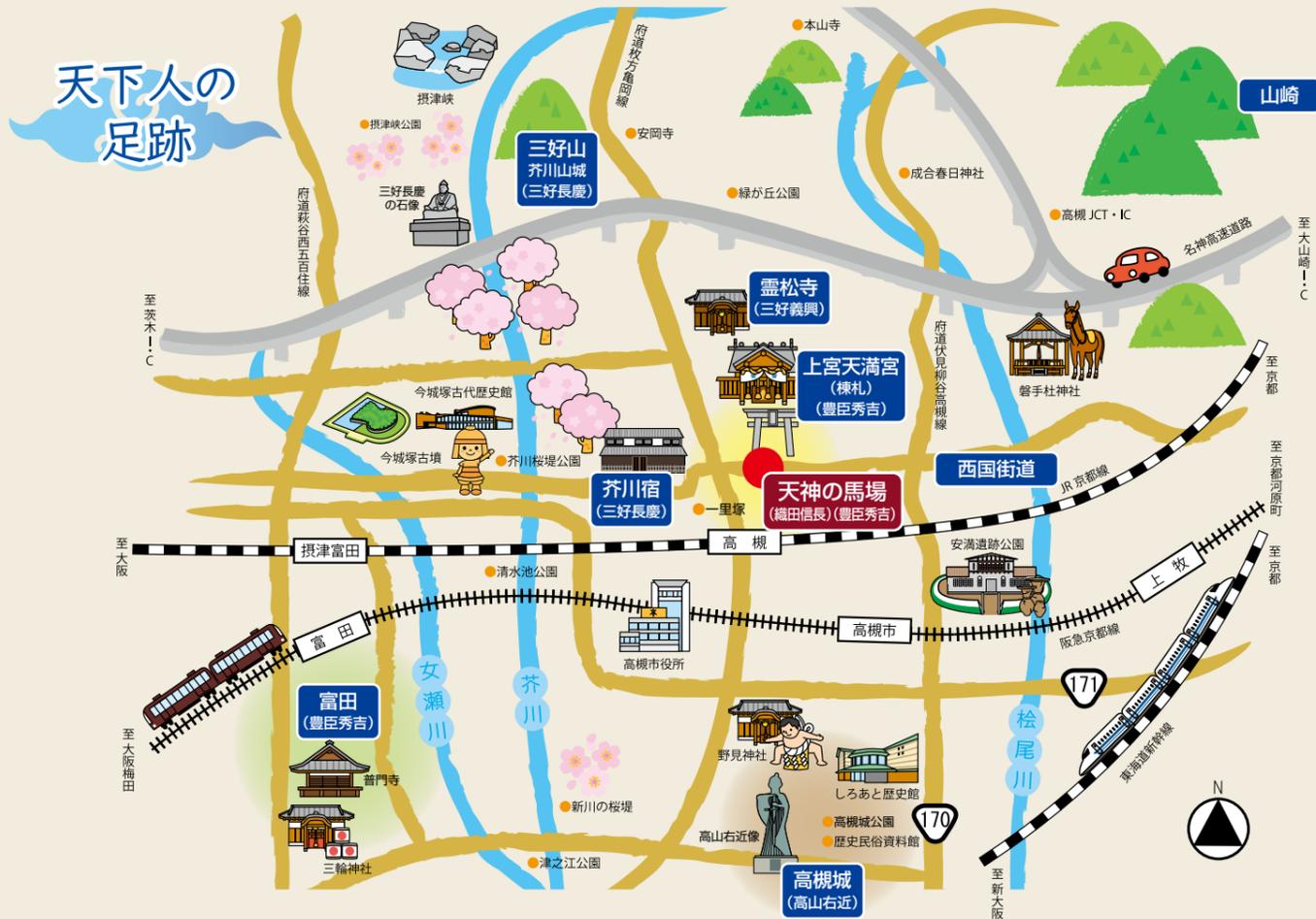


■ 打倒光秀！中国大返しで秀吉が出現

天正 10 年 (1582) 6 月 2 日の明け方、明智光秀が織田信長を討つ「本能寺の変」が起こります。この一報は、早くも 3 日の未明に遠く備中高松城 (岡山市) で毛利氏と対峙する羽柴 (後の豊臣) 秀吉に伝わりました。すぐさま秀吉は打倒光秀を決意し、翌 4 日には和議を結び、京都へと軍勢を取って返す「中国大返し」を開始します。6 日に姫路城へ帰還すると、9 日には明石、11 日には尼崎へと進み、そして 12 日、秀吉の軍勢は天神の馬場に姿を現しました。



■ 天下分け目の山崎の合戦へ

軍議の結果、秀吉の軍勢は天神の馬場から西国街道を進むことになり、戦場に一番近い高槻城主の高山右近が先陣をつとめ、茨木城主の中川清秀らと街道沿いの大山崎の町に布陣することになりました。12 日には、光秀が入った勝龍寺城の近くで小競り合いがはじまります。秀吉本隊は寺内町として栄えた本市の富田に着陣、信長の子信孝を迎え、13 日に信長の弔い合戦へと天神の馬場を出立します。

合戦は、大山崎から出撃した右近が口火を切りました。夕方から両軍は激突しますが、黒田官兵衛らの秀吉方が戦場を見下ろす天王山を確保し、兵力にも勝っていました。夜には勝敗が決し、光秀は落命します。この後、秀吉は信長の後継者レースを制し、天下一統を成し遂げます。秀吉の天下取りは、天神の馬場からはじまりました。



天神の馬場

秀吉の天下はここから始まった



高槻のまち歩きは「たかつき観光アプリ」で！

ダウンロードは
こちらから▼



高槻市
Takatsuki City

大阪城天守閣蔵



たかつきに、のめりこもう！「BOTTOたかつき」

天神の馬場と 天下人たち

天神の馬場とは

天神の馬場は、西国街道と上宮天満宮の参道が交わる付近の通称です。西に人馬が休息できる芥川宿があり、街道でもよく知られた場所でした。戦国時代には交通の要衝として軍勢が陣を置き、高山右近の父である飛騨守が宣教師ルイス・フロイスを出迎えるなど人々が集まる賑わいの場でもありました。やがて、天神の馬場は、天下人のゆかりの地となります。豊臣秀吉は、この地から天下取りの一步を踏み出しました。



▲高槻駅前から見た天神の馬場

■ 織田信長

永禄 11 年 (1568) に上洛を目指す織田信長の軍勢は天神の馬場に入り芥川宿を焼いた後、三好一族から芥川山城と天下を奪取しました。



織田信長像
(神戸市立博物館蔵)

天正 6 年 (1578) に高山右

近が籠る高槻城を攻めた際にも、信長は天神の馬場に陣を据え、上宮天満宮が所在する丘陵上に砦を作るように命じています。翌年にも西へと西国街道を進む際、信長はこの辺りから鷹狩りを楽しんでいます。

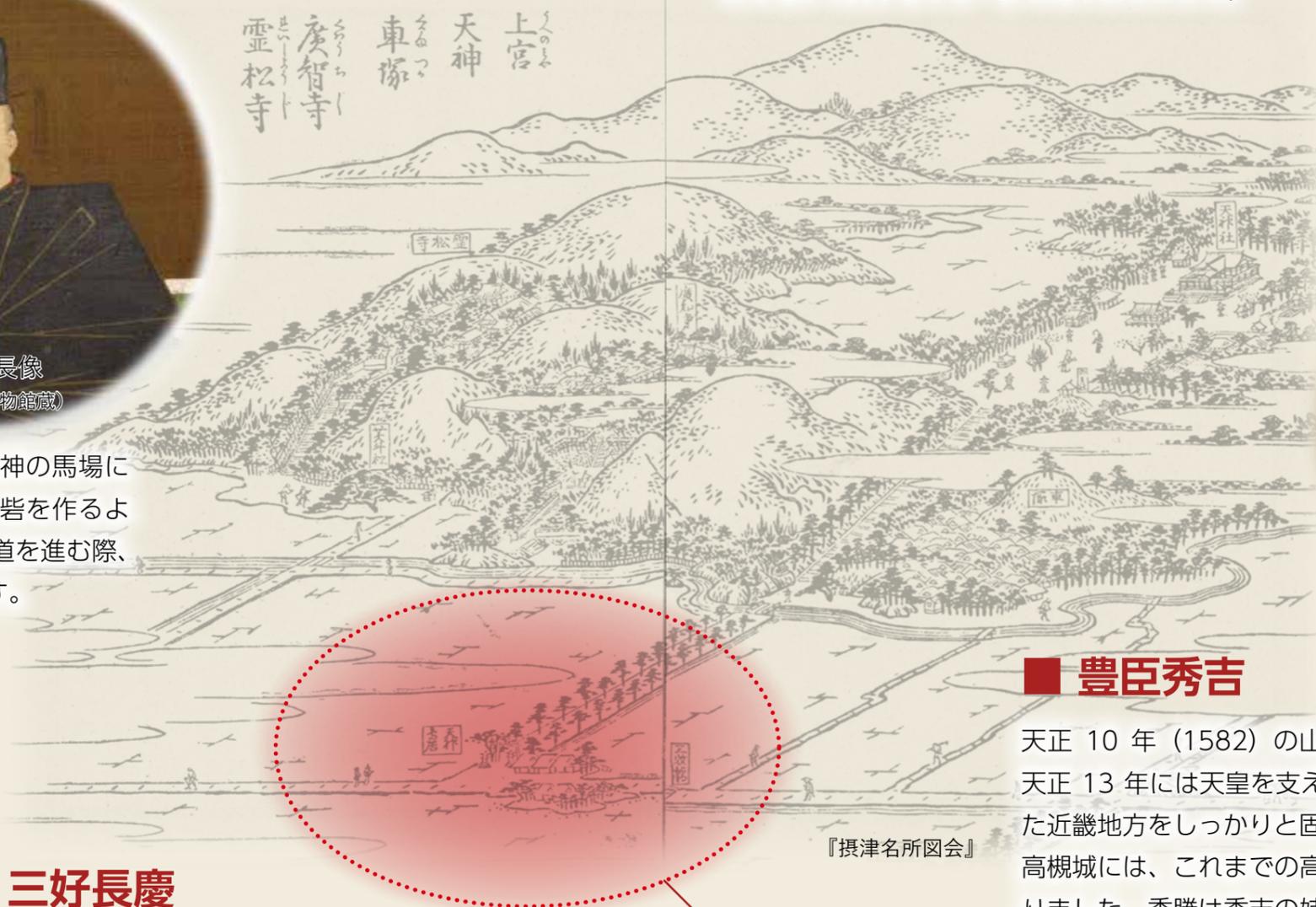


三好長慶
(京都大学総合博物館蔵)

■ 三好長慶

三好長慶は、織田信長に先駆けた天下人です。天文 22 年 (1553) に摂津峡の一画にあたる芥川山城に入り、天下を治めました。この長慶の祖父の兄弟に芥川長則、その子に芥川孫十郎がいます。元々、三好氏は阿波国 (徳島県) を本拠とし、戦国時代に近畿へと進出しました。

三好一族は、芥川宿周辺を拠点とする芥川氏と関係を結び、摂津に足懸りをつくらうとしていました。



『摂津名所図会』

天神の馬場

■ 豊臣秀吉

天正 10 年 (1582) の山崎合戦の後、羽柴秀吉は摂津に大坂城を築き、天正 13 年には天皇を支える関白となりました。秀吉は自らの足元となった近畿地方をしっかりと固めるため、一族を大名として配置していきます。高槻城には、これまでの高山右近に代わり、羽柴小吉秀勝が入ることになりました。秀勝は秀吉の姉の子で、間もなく妻に浅井三姉妹の一人・江を迎えています。やがて高槻は、豊臣の姓を賜った秀吉自身の直轄領となり、天正 18 年 2 月、秀吉は戦乱で荒廃した上宮天満宮の社殿を再興しました。このときの棟札が伝わり、「関白豊臣の心願に依って之を立てる」と記されています。秀吉の政権は、「太閤検地」と呼ばれる検地 (田畑の収穫量等の調査) を全国で実施しました。天神の馬場に隣接する芥川村でも、片桐且元を奉行とする文禄 3 年 (1594) の 9 月から実施され、その検地帳が今に伝わります (高槻市指定文化財)。



豊臣秀吉
(大阪城天守閣蔵)